たのしくあそぶ まちづくりを応援する情報誌「たむたむ」

tamtam

2025.01
VOL. 32
丹波市市民活動支援センター

丹波市がめざす “すべての人が 幸せになれる教育”とは

▲東小学校 学校運営協議会主催の「大人の城山のぼり」
学校運営協議会委員・保護者・教職員・地域住民など、参加者同士のつながりづくりを目的に開催された。

特集
「人を愛しふるさとを想い
しあわせのカタチを創造できる人づくり」

インタビュー
丹波市地域学校協働活動推進員
松井　崇好さん（東小学校）

コラム
対話が「学びの土壌」を豊かにする

特集「人を愛し ふるさとを想い しあわせのカタチを創造できる 人づくり」

丹波市では、令和7年4月から令和12年3月までの5年間を計画期間とする「第3次丹波市教育振興基本計画」（以下、本計画）を策定するにあたり、丹波市教育振興基本計画審議会を設置し、必要な調査と審議を行ってきました。全13回の審議を重ね、昨年11月に答申（計画案）が提出されました。本計画は、「こどもまんなか社会の実現」、「多様性と包摂性のある共生社会の実現」、「ウェルビーイングの向上」の3つの視点を踏まえています。今号では、本計画の注目ポイントを解説し、今後5年間の丹波市の教育の姿について考えます。

▼答申の詳細ウェブページ（丹波市）
QRコードからご確認ください。

▲計画内に掲載されている基本理念

丹波市がめざす教育は、「人と人とのつながりの中で、楽しく学び、ともに考え、すべての人が幸せになれる教育」

計画では、「人を愛し ふるさとを想い しあわせのカタチを創造できる 人づくり」を基本理念としています。この理念に基づき、「人と人とのつながりの中で、楽しく学び、ともに考え、すべての人が幸せになれる教育」を目指しています。5つの基本方針の中で、特に地域づくりに関連する部分として、「こどもも大人も生涯を通じて楽しく学び続けることができる地域コミュニティの基盤を支える教育を推進する」が示されています。

計画で一番注目している言葉は、「ウェルビーイング」です。ウェルビーイングとは、「身体的・精神的・社会的によい状態にあること」を指します。ウェルビーイングが実現されると、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じることができると言われています。

計画では、「地域主体の学びの場づくりへの支援」、「学校・家庭・地域との協働による豊かな学びの推進」、「社会教育にかかわる人材の育成」などの施策に取り組むとしており、大事な視点として以下の点があります。

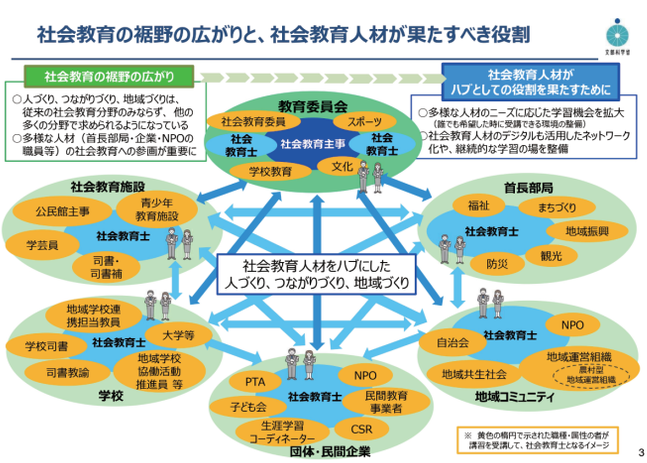
▲計画内に掲載されている５つの基本方針

■ウェルビーイングが実現される社会は、こどもから大人まで一人ひとりが担い手となって創るもの

■地域においては、生涯学習や社会教育活動を通じて地域コミュニティを基盤とした市民一人ひとりのウェルビーイングを実現していく視点が重要

■人や地域とつながり、大人もこどもも楽しく学び続けられること、また、その中で、笑いあい、喜びあえることが大切

これの実現に向けて、地域における学びを通じて人々の「つながり」や「かかわり」をつくり、共感的・協調的な関係性による地域コミュニティの基盤を形成するために、地域社会の担い手となる人づくりに取り組むとしています。また、地域学校協働活動推進員や社会教育士等の人材の活躍機会の拡充にも触れられています。



▲社会教育の裾野の広がりと、
社会教育人材が果たすべき役割
（文部科学省資料）

インタビュー

丹波市地域学校協働活動推進員
（丹波市立東小学校）
松井　崇好さん

東小コミスクの活動に関わる方の〝ウェルビーイング〟を向上させたい

松井崇好さんは、2023年度に東小学校のPTA会長を務め、コミュニティ・スクールの取り組みに関わっていました。そのことをきっかけに2024年度から地域学校協働活動推進員として、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動に取り組んでいます。推進員になってまだ1年弱ですが、学校と地域が連携した活動に向けて、積極的に取り組んでおられます。

東小コミスクの2024年度のスローガンは、「子どもをど真ん中に学校・地域の魅力発信～つながろう東小コミスク～」です。「こどもまんなか」の視点を大切にしており、コミスクの活動を通じて、学校と家庭と地域が互いに相談し合える関係になることを目指して取り組んでいます。毎年開催しているクラブ活動では、これまでは地域の方に先生になっていただき、先生が教えられる内容をベースに活動をしていました。今年度は、これまでのやり方を変え、まずは児童に「やってみたいクラブ」を自由に発表してもらいました。

それを実現するために松井さんが地域内外から講師になれる人を見つけ、これまでになかった「カフェクラブ」、「城山トレランクラブ」、「水分れいきものクラブ」、「つりクラブ」など、児童の「やりたい！」を叶える8つのクラブ活動が実現しました。

東小コミスクの活動の中で大切にしているのは、関わる方が「年齢や職歴・経験に関係なく意見を出し合える場づくり」です。これまでの学校運営協議会の会議では、学校に対する要望や意見が多く、新しい企画を考えるための話し合いの機会はあまり多くなかったそうです。今年度からは、年3回の協議会だけでなく、委員の全員が参加できる事前ミーティングをしています。また、協議会ではワークショップ形式を導入して、委員のみなさんが意見を言える環境を整え、当事者意識を持ってもらえる工夫をしてきました。そして、より細かい情報共有や確認相談ができるように「LINEグループ」を活用して、すべての委員が意見を出しやすくなるようにしています。さらに、地域全体に対しては、インスタグラムによる情報発信に力を入れ、東小コミスクの活動の様子を分かりやすく伝えています。

松井さんは、「コミスクをすることが目的ではなく、コミスクは何かを実現するための手段だと考えています。誰のために何をするのかということを、メンバー全員で共有できるように心掛けています。東小コミスクの活動を通して、地域の子どもから大人までのつながりを生み出し、関わる人のウェルビーイングを向上させたいと思いながら取り組んでいます」と語ってくれました。

▲子どもたちにエールを贈る
地域学校協働活動推進員　松井 崇好さん

▲東小学校学校運営協議会
Instagram

コラム

対話が「学びの土壌」を豊かにする

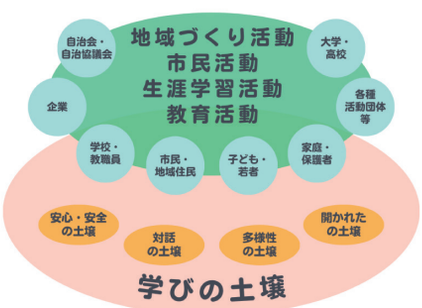
計画の基本方針の1つとして、「新たな時代の学びを支え誰もが安全・安心に過ごせる学びの土壌を豊かにする」と示されています。本コラムでは、あまり聞きなじみがないかもしれない、「学びの土壌」について触れていきます。

「学びの土壌」とは、何を学べるのか、どのように学べるのかという学習内容ではなく、誰と学べるか、どんな環境で学べるのかといった、一緒に学びに取り組む人との人間関係の状態や、安心して発言できるといった雰囲気や環境などを指しています。「学びの土壌」が豊かな場では、失敗しても大丈夫という前提が保障されており、子どもから大人までが、協力をし合いながら前向きに行動し、挑戦ができる雰囲気ができあがっています。

誰もが成長を感じることができる「学びの土壌」を耕すためには、次の4つのポイントを理解しておくことが大切です。1つ目は誰もが話がしやすく、挑戦しやすい環境をつくる「安心・安全の土壌」、2つ目は互いの考え方を交差させる「対話の土壌」、3つ目は協働や連携を生み出していく「多様性の土壌」、4つ目は地域や社会に対して「開かれた土壌」です。

土壌を耕す具体的な取り組みの1つとして、地域、家庭、学校がゆるやかにつながることができるネットワークづくりがあります。そこでは、立場や肩書は関係なく自分事として、本音を話せる場が必要となります。「対話」や「話し合い」の中で、新たな発見、多様な価値観や考えに触れることができます。そのプロセスの中で生まれる「学び」や「発見」が、土壌を豊かにする養分となっていきます。そして、お互いの「つながり」や「かかわり」が生まれていくことで、協力し合う関係ができ、その結果、個人のウェルビーイングだけでなく、地域全体のウェルビーイングの実現にもつながっていきます。

「学びの土壌」が豊かになると、誰もが学びを通じてつながり、自分の成長を感じながら、柔軟に変化することができる地域づくりに関わる環境が整っていくでしょう。



▲学びの土壌のイメージ図
(©TSUTAKI)

▲中学生と大人が対話をする
「TAMBA まなび・ときめきフェス 2024」
（2024 年 10 月開催）

▲だれでもセンセイになれる
「たんばまなびのマルシェ」は、学びの土壌を豊かにする取り組みの一つ（2024 年 12 月開催）

丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER
https://www.tamba-plaza.jp/ccac/
〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp
開館時間 10：00 ― 18：00（会議室は 21：30 まで）／毎週月曜日・年末年始休館